

2 事業の概要と成果																									
(1) 上位目標の達成度	<p>「社会基盤の強化発展に寄与する。」という上位目標達成に向け、ERWチームの能力強化については、計画どおり、順調に進んでいる。また、知識だけでなく実習による実体験によって、住民への危険回避教育等社会基盤の強化発展に資する姿勢も向上しつつある。</p> <p>教官教育について、CMAC教官にも科目を担当させ、その中で評価する。</p>																								
(2) 事業内容	<p>本事業は、3か年計画であるが、本報告は第2期(2016年3月～2017年2月)の活動内容及び成果について報告するものである。</p> <p>ア 教育準備</p> <p>(ア) 教育資料等の作成</p> <p>教育科目表、教育順次表、教育計画(レッスンプラン)、教育資料等を作成し、教育資料4種類(計78冊)を準備した。</p> <p>EOD教育からERWI教育へ変わったため、新しい科目も多く、CMACとの協議に時間がかかったものの、計画どおりの資料を作成した。</p> <p>EOD=Explosive Ordnance Disposal ERW=Explosive Remnants of War ERWI=Explosive Remnants of War Intervention</p> <p>別紙第1 教育準備間作成した資料等</p> <p>(イ) CMAC本部及びTIMAと教育検討会を10回実施し、教育要領及び教育内容、被教育チームの交代要領、教育前アセスメント(素養試験)等について協議し教育資料作成など教育準備を確立させた。</p> <p>検討会実施状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実施日</th> <th>CMAC参加者</th> <th>検討主内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月22日</td> <td>CMAC 本部</td> <td>教育期間・教育内容</td> </tr> <tr> <td>4月28日</td> <td>TIMA</td> <td>教育要領・テキストの内容審議</td> </tr> <tr> <td>5月6日</td> <td>CMAC 本部</td> <td>教育期間・教育内容</td> </tr> <tr> <td>6月2・3日</td> <td>CMAC 本部、 TIMA</td> <td>教育期間及び教育科目などについて協議</td> </tr> <tr> <td>6月14日</td> <td>TIMA</td> <td>教育期間の細部及び野外マネジメント科目と内容、場所などについて協議</td> </tr> <tr> <td>6月15日</td> <td>TIMA</td> <td>TIMA マネージャーとJMASの教育要領について協定書調印</td> </tr> <tr> <td>6月17日</td> <td>TIMA</td> <td>教育開始前の教育全般について</td> </tr> </tbody> </table>	実施日	CMAC参加者	検討主内容	4月22日	CMAC 本部	教育期間・教育内容	4月28日	TIMA	教育要領・テキストの内容審議	5月6日	CMAC 本部	教育期間・教育内容	6月2・3日	CMAC 本部、 TIMA	教育期間及び教育科目などについて協議	6月14日	TIMA	教育期間の細部及び野外マネジメント科目と内容、場所などについて協議	6月15日	TIMA	TIMA マネージャーとJMASの教育要領について協定書調印	6月17日	TIMA	教育開始前の教育全般について
実施日	CMAC参加者	検討主内容																							
4月22日	CMAC 本部	教育期間・教育内容																							
4月28日	TIMA	教育要領・テキストの内容審議																							
5月6日	CMAC 本部	教育期間・教育内容																							
6月2・3日	CMAC 本部、 TIMA	教育期間及び教育科目などについて協議																							
6月14日	TIMA	教育期間の細部及び野外マネジメント科目と内容、場所などについて協議																							
6月15日	TIMA	TIMA マネージャーとJMASの教育要領について協定書調印																							
6月17日	TIMA	教育開始前の教育全般について																							

		再確認
7月8日	TIMA	第2期目の教育期間の細部について協議
8月16日	TIMA	TIMA マネージャーとJMASの教育要領について協定書調印
11月29日	TIMA	TIMA マネージャーとJMASの教育要領について協定書調印
2月1日	TIMA	3期目教育要領について調整会議

TIMA（地雷処理の技術研究所）: Technical Institute of Mine Action

(ウ) 教導チームの練成

教育展示できるように、展示予定の科目について19回練成した。

別紙第2 教導チーム練成状況

(エ) 被教育者の能力の把握を実施する

教育開始前に集合させ2日間で能力把握を実施した。

イ 教育の実施

チームリーダーの野外マネジメント能力の向上に加え、サーベイ能力、地域マップ作成能力、地域住民に対する危険回避教育の能力向上についての教育を実施した。

(ア) CMACが指定した6個チームに対して2016年6月から、30名に対し教育を実施した。

教育期間	教育対象チーム
6月14日～8月26日	#5、#16 ERWI チーム
9月5日～11月28日	#6、#22 ERWI チーム
12月5日～2月13日	#1、#25 ERWI チーム

(イ) 教官の能力向上

CMAC教官担任科目の教育実施における教育の準備要領及び教育終了後の成果の蓄積要領に対してアドバイスを行う。

CMAC教官の教育実施中に視察を行い、教育要領を把握する。第1期目では野外マネジメント科目の教育が最初であったため、本課目について教育内容のアンケート調査、及び評価検討会を実施した。

実施者：日本人専門家

対象者：CMACのERWI教官要員5名

教育時期	教育参加者	内容
------	-------	----

	<table border="1" data-bbox="544 152 1420 300"> <tr> <td data-bbox="544 152 858 203">6月14日～7月3日</td> <td data-bbox="858 152 1142 203">CMAC 教官要員4名</td> <td data-bbox="1142 152 1420 203" rowspan="3">教育内容のアンケート調査及び評価検討会</td> </tr> <tr> <td data-bbox="544 203 858 255">9月8日～11月7日</td> <td data-bbox="858 203 1142 255">CMAC 教官要員5名</td> </tr> <tr> <td data-bbox="544 255 858 300">12月5日～2月6日</td> <td data-bbox="858 255 1142 300">"</td> </tr> </table> <p data-bbox="544 300 1420 344">教育視察回数14回</p> <p data-bbox="544 344 1420 389">教育の準備要領、教育視察及び教育のアドバイスを実施した。</p> <p data-bbox="491 389 1420 434">ウ ERW探知機の改善検討</p> <p data-bbox="544 434 1420 636">探知機材運用の効率化を狙い機材システムの能力向上を検討した。現有UXO探査機（エビンガー740）に付属するGPS連動の自記記録器材があることが分かったため、この導入について業者のデモンストレーション見学、情報収集を行った。</p> <p data-bbox="491 636 1420 680">エ 2014年度の被教育者のフォローアップを実施した。</p> <p data-bbox="544 680 1420 779">年2回予定したモニタリングの第1回目（8月1日～5日）及び第2回目（2017年2月15日～17日）を実施した。</p>	6月14日～7月3日	CMAC 教官要員4名	教育内容のアンケート調査及び評価検討会	9月8日～11月7日	CMAC 教官要員5名	12月5日～2月6日	"
6月14日～7月3日	CMAC 教官要員4名	教育内容のアンケート調査及び評価検討会						
9月8日～11月7日	CMAC 教官要員5名							
12月5日～2月6日	"							
(3) 達成された成果	<p data-bbox="491 779 1420 824">ア チーム員の能力の向上</p> <p data-bbox="544 824 1420 1061">チームリーダーは今まで曖昧であった計画の作成、命令の下达が的確に実施できるようになった。また、結節においてもチーム員に対して処理作業や安全についての指導、指示を行なえるようになった。チーム員も不発弾の安全化要領についても積極的に修得した。また、教育後の所見においても概ね能力が向上したと答えている。</p> <p data-bbox="544 1061 1420 1106">別紙第3 教育終了後のチームリーダーの所見</p> <p data-bbox="544 1106 1420 1151">【指標】 TIMA教育終了時最終テストで70点以上であること。</p> <p data-bbox="544 1151 1420 1240">教育に参加したERWIチーム員6個チームが70点以上を獲得した。</p> <p data-bbox="544 1240 1420 1397">チームリーダーの平均点87(%)点(素養試験63%)シニアメンバー平均点85(%)点(素養試験62%)チーム員の平均点86(%)点(素養試験60%)であった。</p> <p data-bbox="544 1397 1420 1442">別紙第4 各種試験結果</p> <p data-bbox="544 1442 1420 1532">実習時に危険回避教育を実施させたが、チームリーダーの計画に従い、効果的な教育を実施しており良好であった。</p> <p data-bbox="491 1599 1420 1644">イ ERWI(CMAC)教官の質的能力の向上</p> <p data-bbox="544 1644 1420 1733">【指標】 教育視察時チェックリストで70%以上の項目で良好と判断したこと。</p> <p data-bbox="544 1733 1420 1980">教育内容、教育要領など良好。CMAC教官として短くて8年、長い人は19年と教官経験が豊富で活動経験を生かした具体性のある教育をしていた。態度も自信にあふれて教官の質的向上は良好であった。改善を要する点は教官個人のレクチャープランはまだまだ不十分なので、「教育の参考」資料を提示し改善提案した。</p>							

	<p>ウ 前年度のフォローアップ 2回予定したモニタリングの第1回目(8月1日～5日)及び第2回目(2017年2月15日～17日)を実施した。</p> <p>昨年度のEOD課程修了生24名の内、国内で活動中の者は6名であり、その6名はチームリーダーであり、CMACと共同して面接、活動状況の把握を実施した。</p> <p>6人について教育成果は十分あったものと評価する。</p> <p>EODからERWIへの組織替えもあり、要員の多くは別組織への配置換え、再就職、解雇などで今回はチームリーダーのみを対象として行った。CMACの人材育成と人事管理のミスマッチ及びドナーの不足が認識できた。</p> <p>エ その他 社会基盤の強化発展に寄与する(地域の直接的安全化への貢献)教育実習においてのオペレーション及び、教導チームの巡回により、期間中に以下の不発弾等処理し、地域の安全化に貢献した。</p> <p>回収不発弾等実績(2月28日現在)</p> <table border="1" data-bbox="628 882 1123 1173"> <thead> <tr> <th>弾種</th> <th>回収数(発)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>不発弾</td> <td>2,367</td> </tr> <tr> <td>対人地雷</td> <td>81</td> </tr> <tr> <td>対戦車地雷</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>爆弾</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>2,463</td> </tr> </tbody> </table> <p>参考:危険回避教育実績 対象者 5,338名</p> <p>オ 裨益人口 直接裨益人口:ERWI要員35名、教官要員5名 間接裨益人口:実習及び教導チームのERWの回収により社会基盤の強化発展に寄与し、活動した州の住民240,000人(危険回避教育及び不発弾処理を実施した地域の汚染人口)が間接的に裨益した。</p>	弾種	回収数(発)	不発弾	2,367	対人地雷	81	対戦車地雷	0	爆弾	15	合計	2,463
弾種	回収数(発)												
不発弾	2,367												
対人地雷	81												
対戦車地雷	0												
爆弾	15												
合計	2,463												
(4)今後の見通しについて	<p>ア ERWIチームの処理能力向上 事前に、1週間程度事前教育を実施し、教育の質の平準化を図る</p> <p>イ 教官要員の能力向上 引き継ぎ教育視察及び被教育者のアンケート調査を実施し、教育評価する。</p> <p>ウ 2015年度のERWI被教育者のフォローアップを実施する。</p>												